

第1講

名君？ 暴君？ 貴族社会を変えた大帝 嵯峨天皇！（2005年度第1問） —その改革の歴史的意義—

次の平安時代初期の年表を読み、下記の設問に答えなさい。

- 809年 嵯峨天皇が即位する
- 810年 蔵人所を設置する
- 812年 この頃、空海が『風信帖』を書く
- 814年 『凌雲集』ができる
- 816年 この頃、檢非違使を設置する
- 818年 平安宮の諸門・建物の名称を唐風にあらためる
『文華秀麗集』ができる
- 820年 『弘仁格』『弘仁式』が成立する
- 821年 唐風をとり入れた儀式次第を記す勅撰儀式書『内裏式』が成立する
藤原冬嗣が勸学院を設置する
- 823年 嵯峨天皇が譲位する
- 827年 『経国集』ができる
- 833年 『令義解』が完成する
- 842年 嵯峨上皇が死去する

設問

嵯峨天皇は、即位の翌年に起きた藤原薬子の変を経て権力を確立し、貴族をおさえて強い政治力をふるい、譲位した後も上皇として朝廷に重きをなした。その結果、この時期30年余りにわたって政治の安定した状態が続くこととなった。古代における律令国家や文化の変化の中で、この時期はどのような意味をもっているか。政策と文化の関わりに注目して、6行（180字）以内で説明しなさい。

解いてみましょう (第1講)

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア 律令国家や文化の について書く。

イ と の関わりに注目して書く。

ウ 6行 (180字) 以内で書く。



嵯峨天皇は、どのようにして貴族をおさえ強い政治力を持つようになったのか。

それを 面と 面から書く。

その結果、どのような変化がおこったのかを書く。

2 資料と教科書の内容とを照らし合わせる。

ア 面に関連する教科書のページと内容は、

教科書の



イ (イ) 面に関連する教科書のページと内容は、

教科書の



3 与えられた資料と教科書の記述から作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の「問われている（求められている）ことを確認する」と「関連する教科書のページと内容」からの抜粋も記されています。

資料と教科書から関連している部分を抜き出して空欄を埋める。

(□は、ほぼ抜き出す。▭は考えて「決めぜりふ」を入れる。)

ア～サの内容について、グループ分けを行う。その際、政策面なのか文化面なのかに注意する

809年 嵯峨天皇が即位する

810年 蔵人所を設置する ア

812年 この頃、空海が『風信帖』を書く イ

814年 『凌雲集』ができる ウ

816年 この頃、檢非違使を設置する エ

818年 平安宮の諸門・建物の名称を唐風に

あらためる オ

『文華秀麗集』ができる カ

820年 『弘仁格』『弘仁式』が成立する キ

821年 唐風をとり入れた儀式次第を記す

勅撰儀式書『内裏式』が成立する ク

藤原冬嗣が勅学院を設置する ケ

823年 嵯峨天皇が譲位する

827年 『経国集』ができる コ

833年 『令義解』が完成する サ

842年 嵯峨上皇が死去する

<Cグループ オ ク (ア) 面>

⑩▭を改めて⑥▭の儀

礼を⑪▭で、宮廷儀式を整え、

天皇の⑫▭の高揚を図った。

【教科書】

嵯峨天皇は、唐風を重んじ、平安宮の殿舎に唐風の名称をつけたほか、唐風の儀礼を受け入れて宮廷の儀式を整えた。(P. 64)

<Dグループ ケ (イ) 面>

④▭・官人には⑬▭など

⑥▭の⑭▭が求められた。

<Eグループ キ サ (ア) 面>

⑮▭の編纂など⑯▭の整備を進め、

▭。

【教科書】

法制の整備も進められた。律令の規定を補足・修正する格と施行細則の式とに分類・編集し、弘仁格式が編纂された。これは、官庁の実態にあわせて政治実務の便をはかったもの(略)令の解釈を公式に統一した『令義解』が清原夏野らによって編まれた。(P. 63)

<Aグループ ア エ (ア) 面>

天皇に①▭の②▭の設置など官制(官

僚制)の再編を行い③▭を図った。

【教科書】

天皇の命令をすみやかに太政官組織に伝えるために、秘書官長としての蔵人頭が設けられ、藤原冬嗣らが任命された。その役所が蔵人所で、所属する蔵人は、やがて天皇の側近として宮廷で重要な役割を果たすことになった。また嵯峨天皇は、平安京内の警察に当たる檢非違使を設けた。檢非違使は、のちには裁判もおこなうようになり、京の統治を担う重要な職となっていった。

令に定められていない新しい官職を令外官という。(P. 62)

<Bグループ イ ウ カ コ (イ) 面>

政治に携わる④▭・官人には⑤▭など

⑥▭の⑦▭が重視され、⑧▭に

なった。このことは、⑨▭。

【教科書】

文学・学問に長じた文人貴族を政治に登用して国家の経営に参加させる方針をとった。貴族は、教養として漢詩文をつくるのが重視され、漢文学がさかんになり、漢字文化に習熟して漢文をみずからのものとして使いこなすようになった。このことは、のちの国風文化の前提となった。

『凌雲集』、『文華秀麗集』、『経国集』といった三つの勅撰漢詩集があいついで編まれた。(P. 64)

書道では、唐風の書が広まり、嵯峨天皇・空海・橘逸勢らの能書家が出て、のちに三筆と称せられた。

風信帖 空海が最澄に送った書状 (P. 67)

【教科書】

大学での学問も重んじられ、とくに儒教を学ぶ明経道や、中国の歴史・文学を学ぶ紀伝道(文章道)がさかんになり、貴族は一族子弟の教育のために、寄宿舎に当たる大学別曹を設けた。(略)和気氏の弘文院、藤原氏の勅学院、在原氏や皇族の奨学院、橘氏の学館院などが知られる。(P. 64)

抜き出したものをまとめる

嵯峨朝では、天皇に ① の ② 設置など官制（官僚制）の再編を通して ③ が図られた。さらに ④ などの ⑤ の整備を進めて ⑥

また、⑦ を改めて ⑧ の儀礼を ⑨ て、宮廷儀式を整え、天皇の ⑩ の高揚を図った。

政治に携わる ⑪ や官人には ⑫ など ⑬ の ⑭ や、⑮ などの ⑯ の ⑰ が求められたため、⑱ の ⑲ が ⑳ になった。

こうした ㉑ の ㉒ 制度や ㉓ の積極的な ㉔ は ㉕ に基づく ㉖ 社会を ㉗ とともに、㉘

初登場。「決めぜりふ」を入れる



4 180字に要約する。

Large empty box for summarizing the text within a 180-character limit.

< エピソード 「嵯峨天皇と藤原冬嗣」 >

受験生にとって、嵯峨天皇と言われて最初の思いつくのは、「平城太上天皇の変と蔵人頭の設置」ではないだろうか。いわゆる「セットネタ」である。

「平城太上天皇の変」は、「薬子の変」とも呼ばれる。と言うより、以前は「薬子の変」が一般的であった。変は、「藤原薬子という稀代の悪女」が、藤原式家の政治権力奪回のために、彼女を寵愛していた平城太上天皇をそそのかして起こした事件という認識であった。

しかし、現在では、「律令制下の太上天皇制度が王権を分掌していることが原因で起こった事件」との評価がなされるようになり、やはり首謀者は「平城太上天皇だろう」ということで、「平城太上天皇の変」と呼ぶようになってきた。

「昔は平城上皇って言っていたような気がするのだけど、今は太上天皇って言うの?」と思った人もいるかもしれない。この「?」の発端をつくったのも嵯峨天皇である。文武天皇の時に制定された大宝令において、太上天皇の称号が定められたため、その文武天皇に譲位した持統天皇が史上初の太上天皇となった。太上天皇は、天皇の親権者であるため、天皇と同格の権威と権限を有するものとされていた。これが上記の「太上天皇制度が王権を分掌」という意味である。しかし、嵯峨天皇は兄と衝突し、これを排除したという苦い経験から、朝廷における二重権力の弊害をなくすために、子の淳和天皇に譲位した際、太上天皇を辞退した。しかし淳和天皇はこれを受け入れず、最終的には嵯峨に太上天皇の称号を宣下することで決着させた。これにより、太上天皇は、自動的に称するものではなく、新天皇から与えられる地位となった。そのため、これ以降、平城までの太上天皇はそのまま「太上天皇」と呼び、嵯峨天皇以降の太上天皇を「上皇」と呼び分けるようになったのである。

その嵯峨が、心底信頼した人物が、初代蔵人頭に抜擢された藤原冬嗣である。どれくらい信頼したかということ、その長男良房に自分の娘（潔姫）をやるほど信頼した。良房は、冬嗣の後継者にふさわしい有能さであり、良房自身も嵯峨に気に入られた。そして後には、人臣初の摂政となった。その子孫が摂関政治全盛をもたらした藤原道長である。

唐風のシステムや文化を積極的に導入することで、天皇権力の強化・権威の高揚に成功した嵯峨であったが、彼が信頼して取り立てた人物の子孫によって、後には「天皇は、自分が望んでいる子への譲位すら叶わない」摂関政治の時代がもたらされるのであった。その時代の文化は、国風文化と呼ばれている。

まとめ

嵯峨天皇の時代は、令外官の設置、格式の整備、令の注釈書の編纂、弘仁・貞観文化と称される唐風の漢文学、学問の奨励など盛りだくさんで、受験生を苦しめる。

しかし、その本質は、

まさに大帝の時代であった。